



松明

(令和3年3月発行・隔月発行) 2021 vol.2



福島病院附属看護学校閉校のご挨拶

独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校長

杉浦 嘉泰



冬の寒さもゆるみ、春光うらかな季節となりました令和3年3月31日、独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校は、その使命を全うし閉校することになりました。本校の前身は、昭和28年6月3日に設立された国立福島療養所附属准看護学院に始まり、三度の名称変更を経て平成16年3月31日に約50年の歴史に幕を閉じた国立福島病院附属准看護学校です。この後を継いで、平成16年4月1日、国立病院の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校が、3年課程の看護学校として出発し、今日に至るまで福島県の医療者養成の一翼を担ってきました。

21世紀に入りさまざまな社会の変化がありましたが、福島県は平成23年の東日本大震災と原発事故により、人々の生活や医療を取り巻く環境が大きく変わりました。さらに昨年から世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症により、日常生活のあり方や医療現場・教育現場の状況は一変しました。学校生活もこうした変化の影響を受けましたが、関係機関の御協力と学

生・教職員の尽力により医療者の育成に取り組んで参りました。

本校の教育理念は「患者さんの意思を尊重した、科学的根拠に基づいた患者主体の看護を提供できる看護師の育成」でした。これに基づいて、生命の尊厳と人権を尊重し、科学的知見に基づいた看護教育を行ってまいりました。そして平成16年4月の開校から令和3年3月までに、507名の卒業生を輩出いたしました。本校の理念に沿った教育を受け、大きく成長した卒業生は、現在も医療・福祉・保健の第一線で活躍しております。

このように本校が看護教育における成果を上げ、輝かしい歴史を築くことができましたのは、学校設立に御尽力いただいた地域関係者や国立病院機構の方々、学校運営・教育に携わって下さった地域の医療機関や学校職員の方々、そして今もご協力をいただいております数多くの方々の長年にわたる御指導御鞭撻の賜物です。関係各位の皆様には心からの謝意を表しまして閉校のご挨拶といたします。

本号のご案内

●福島病院附属看護学校閉校のご挨拶……………	1	QCサークル活動 発表一覧……………	5
●独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校の沿革……………	2	●看護部だより キャリアラダーレベルⅢ・1年間の取り組みを発表! ……	6
御礼のご挨拶……………	3	●健康プラザ リハビリテーション科で新たに取り組んでいること…	6
●心に花を咲かせようプロジェクト……………	4	●療育だより お正月遊び……………	7
●令和2年度福島病院QCサークル活動発表会……………	4	新たなカタチのボランティア活動……………	7
QCサークル最優秀賞を受賞して……………	5	●外来担当医表……………	8

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。



【独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校の沿革】

- 昭和28年 6月 国立福島療養所附属准看護学院として発足
- 昭和48年 3月 校舎及び宿舎新築
- 昭和50年 4月 国立療養所福島病院附属准看護学校と改称
- 平成16年 3月 国立郡山病院と統合し国立福島病院としての開院に伴い、国立福島病院附属准看護学校と改称
- 平成16年 4月 国立福島病院附属准看護学校を閉校（卒業生898名）
- 平成16年 4月 独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校開校
- 平成19年 2月 専門士称号付与
- 平成19年 4月 カリキュラム一部改正
- 平成18年8月2日付医発第0802002号国立病院機構本部医療部長通知「国立病院機構附属看護学校のカリキュラム改正について」により政策医療、政策医療看護を追加
- 平成21年 4月 第4次カリキュラム改正（統合分野創設）
- 平成23年12月 体育館新築
- 平成30年 4月 学生募集中止
- 令和 3年 4月 独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校閉校





国立病院機構福島病院附属看護学校は令和3年3月31日をもって閉校します。

平成29年に閉校が決定し、平成31年4月から本格的に準備が進められました。同窓生やお世話になった先生方をご招待する閉校式典・閉校パーティーの開催、閉校記念誌と思い出ムービーの作成、そして最後まで在籍する学生の教育の質向上を第一に考え学校運営してまいりました。

閉校式典については、新型コロナウイルス感染拡大防止から中止せざるを得ず、懐かしいメンバーが集うことはできませんでしたが、記念誌やムービーを作成していく中で、1回生から14回生の多くの卒業生や講師の先生方と連絡を取り合い、17年間を振り返ることができました。懐かしさだけでなく、当校の輝かしい歴史にふれ、改めて当校の存在価値を身に染みて感じました。かけがえのない足跡を記念誌として残す機会が得られたことを光栄に思います。

最後の卒業生となる15回生ですが、本来クラスメイトと活発に議論しながら看護を追究していくところですが、今年度は新型コロナウイルス感染対策から分散登校となり、校舎内は静かにひっそりとして心細さと不安の中の学習でした。しかし、元々元気で勢いのあるクラスだったので、挫けることなく目標に向かって前向きに頑張ってくれました。それに応えるように教員たちも熱意をもって学生と向き合い、授業や実習方法を工夫し進めてくれました。

これまで当校は3つの危機を乗り越えてきました。平成23年の東日本大震災と今回の新型コロナウイルスの脅威、そして、国家試験前夜に起きた震度6弱の地震です。

その度に学校運営において不安や迷いもありましたが、いつも前進する活力となったのは、学生の「明るさ」「たくましさ」そして「団結した行動」でした。

当校には5つの校訓があります。

「憧れと感動」：その心を忘れずに、夢と未来にむかってアクティブに前進する

「進取と自立」：自ら進んで事をなす心をもって、自分の道を自らの力で切り開く

「情熱と挑戦」：情熱をもって、粘り強く夢や目標の達成に挑み続けていく

「寛容と愛」：温もりのある社会で真に心を開き、他者と相互理解のうえ、協力して事を成し遂げる

「融和と共生」：人類が対等であることを自覚して互いに認め合い、信頼し共に手を携え、和をもって共に生きる

どのような時もこれらの校訓が生かされていると感じられました。平成16年4月の開校から今日まで本校が送り出した507名の卒業生は、これからもこの校訓を心に強く刻み、専門職として日々躍進し、保健・医療・福祉の場で活躍していくと確信します。

卒業生の活躍は、これまで当校の教育に携わってくださった皆さまのご指導ご協力の賜です。また、様々な活動において温かく見守っていただきました地域の皆様のお蔭です。

閉校後も福島病院附属看護学校の功績が残せるよう、卒業生、教職員共に精一杯看護の発展に力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、これまで17年間、本当にありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

令和3年3月

教育主事 山田則子



心に花を咲かせようプロジェクト

医事企画連携室 経営企画室長 畠山卓士

今般、「心に花を咲かせようプロジェクト」により、新型コロナウイルス感染のリスクを抱えながら働き続けている須賀川市内の医療従事者、高齢者施設従事者および障がい者施設従事者に向けて、須賀川市民の皆様からメッセージ等が届けられました。

当院も全職員に須賀川市民の皆様から心温まる応援メッセージ等を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

当院では、院内に感染を持ち込まないよう感染防止を強く意識して診療を行っております。患者様に不安を与えないよう、感染管理に気を配りながら病院を運営していく中で、ストレスを抱えながら業務外も含め日々緊張感のある行動を心がけている職員にとって何よりの励みになりました。

今後、ワクチン接種など明るい材料はあるものの終息までには、まだまだ時間がかかると存じますが、地域の皆様に信頼される安心で安全な医療の提供に努めて参ります。

この場をお借りして感謝申し上げますとともに、引き続き市民の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。



令和2年度福島病院QCサークル活動発表会

副院長 石井 勉

QCサークル活動発表会が2月18日に開催されました。QCはクオリティ・コントロールの略語で、組織の『質』を職員の自己啓発によって『高め』合う活動です。職場内でメンバーを募り、テーマを自主的に選定し、1年間を通して課題解決に取り組みます。今年は10サークルが活動成果を発表しました。最優秀賞には、長期入院中の患者さんの日々の生活の潤いを目指した「気分転換、心の健康保ちたい～コロナに負けないぞ～」をテーマとした1病棟が受賞しました。優秀賞は、食事形態を患者さんに適するよう工夫し摂食機能向上を目指した「キューブ（固形物）ください！咀嚼をできるようにする」をテーマとした5病棟が受賞しました。優良賞は、骨折予防のために全患者さんの骨折リスクを評価して病棟スタッフへの周知を目指した「骨折リスクをみんなでKY」をテーマとした検査科が受賞しました。審査員特別賞は、患者さんのポジショニングの際の共通の基準作成を目指した「ポジショニングをみる基準を統一したい」

をテーマとしたリハビリテーション科が受賞しました。10年以上継続して行っているQCサークル活動は、職場での改善行動の手法として確実に院内に根付いてきております。今後も地域医療に貢献できるチャレンジ精神にあふれる病院を目指し活動をしていきます。



QCサークル最優秀賞を受賞して

最優秀賞サークル 第1病棟 熊田美香

1病棟は混合病棟であり脳神経内科、内科、レスパイトの患者さんが入院しています。患者さんは、感染対策によりイベントが中止となり気分転換が図れないこと、面会制限のため家族に会えないことへのストレスを感じていました。また患者さんから入院中に四季を感じる機会が少ないという意見もあり、イベントを行うことで気分転換や四季を意識することができる機会を作りたいと考えました。入院期間の長期化や高齢化、神経内科特有の疾患により認知機能へ働きかける事が大切であり、五感を刺激したいという思いから「四季を感じて気分転換を図ろう～認知機能に訴えかける活動をしよう～」をテーマにしました。病棟スタッフや患者さんからの意見を参考に、感染対策を徹底しながらイベントを企画しました。夏は風鈴の音色や涼を感じてもらい、秋は風船を用いた果物狩り、冬はクリスマスコンサートのDVD鑑賞やツリーを飾りました。また入浴時に音楽を流したり、嗅覚を刺激するために病棟内に桜や金木犀などの四季の草花を飾り香りを楽しめるようにしました。イベントを

通して患者さんからは「気分転換ができた」「四季を感じる事ができた」という感想が聞かれ、スタッフからも「日常業務の中で気持ちにゆとりができ穏やかな気持ちで看護に取り組めた」という意見が聞かれました。今後も患者さんの思いに寄り添い、より良い看護が提供できるように取り組んでいきたいと思ひます。



QCサークル活動 発表一覧

医事企画連携室 経営企画室長 畠山卓士

当院の令和2年度のQCサークル活動発表は10題でした。上位3チームは国立病院機構本部のQC活動奨励表彰に推薦されます。本部審査で最優秀賞・特別優秀賞・優秀賞に輝いたサークルは本部にて表彰され、国立病院総合医学会で発表となります。

順位	部署・サークル名	テーマ・タイトル	リーダー	区分
3位	副院長&検査&放射線 目指せKYの達人	骨折リスクをみんなでKY (共有)Ver.2020	葛西 淳	課題達成型
特別賞	リハビリ	ポジショニングをみる基準を統一したい	西野 壽美	課題達成型
	栄養管理室	厨房内の情報整理	牧田 恵美	問題解決型
	指導室	物品請求に関する見直し	村山 真優子	問題解決型
	第3病棟	摂食コスト漏れを減らそう	有我 周平	課題達成型
1位	第1病棟	気分転換、心の健康保ちたい ～コロナに負けないぞ～	熊田 美香	問題解決型
	第6病棟	みんな車イスに乗ろう！！	藤田 静子	問題解決型
	看護学校	【電気使用量の削減】 ～消費電力使用量、昨年より削減を目指して～	橋本 陽子	課題達成型
	第5病棟	んだ…車イスに乗ってみっぺ 「コロナ禍でも乗っていただきやした」	河野 昭生	課題達成型
2位	第5病棟	キューブ(固形物) ください！ 咀嚼ができるようになる	重原 あい	課題達成型

当院では「倫理的思考のもと対象を科学的に捉え、協働で対象の持てる力を引き出す看護師」の育成を目指し、1年目の卒後教育から中堅・ベテラン看護師の継続教育まで、誰もが学び・成長し続けられるようにキャリアラダーによるキャリア形成の支援を行っています。

キャリアラダーレベルⅢでは個別性の根拠に基づいた適切なケアをチーム全体で実践するためにアセスメント力だけでなく、リーダーシップの発揮・多職種との協働する力を講義やグループディスカッション等の研修を通して養ってきました。今年度は17名がキャリアラダーレベルⅢに1年間取り組みました。発表会では患者様をどのように捉え、適切な看護は何かを考察した過程や他のスタッフや多職種を巻き込むためにどのようにリーダーシップを発揮したのか発表し、その後ディスカッションを行いました。

研修生からは『今回の研修を通して重症心身障害児(者)看護について再学習し、新たな知識として得るものがあつた。様々な患者看護にかかわる一員として、チームで連携し適切で行き届いたケアを実施していこうと思う。』や『悩んだり、大変だったが、取り組んでよかった』など学ぶことの大切さを実感する声や、多くの研修生が

患者様の変化を感じ看護のやりがいを実感することができていました。研修で感じた継続学習の大切さや看護のやりがいを共有し、看護部全体で看護の質を高めることができるように、取り組んでいきたいと思ひます。



リハビリテーション科は、令和3年2月に言語聴覚士が1名増員となりました。現在は理学療法士10名、作業療法士6名、言語聴覚士3名の合計19名で、神経難病病棟や重症心身障がい児(者)病棟の入院患者様を中心に訓練を行っています。3職種による生活機能改善の訓練に加え、新たに2つの取り組みを始めております。

1つ目は、新型コロナウイルス感染症を避けるために、リモート機能を利用したオンラインツアーです。これまでに長崎県の軍艦島や、三重県の伊勢神宮をめぐる旅を実施し、患者様からご好評を頂いております。患者様のコミュニケーション意欲の向上と離床の拡大のために継続していきたいです。

2つ目は、リハビリテーション科スタッフによる口腔ケアの取り組みです。摂食嚥下機能の低下や自力での喀痰困難がある患者様は、口腔内に食残や痰が付着して汚れ、乾燥していることが多く見られます。お口の清潔が

十分に維持されないと、虫歯や歯周病を引き起こすばかりでなく、誤嚥性肺炎を発症するリスクが高まります。実際に口腔内の汚れをとり、お口の潤いや爽快感が得られています。口腔ケアを継続的に実施し、口腔疾患や誤嚥性肺炎の予防に貢献していきたいです。

今後も3職種で情報共有を図り、良質な医療サービスの提供ができるよう努めて参ります。



例年、1月の行事日に実施している“お正月遊び”は、患者さんとそのご家族とともに福笑いや羽子板などのお正月遊びを通して一年の幕開けを楽しく過ごす行事となっています。しかし、昨年からのコロナウィルスの影響を受け、残念ながら行事としての実施は叶いませんでした。しかし、患者さんには少しでもお正月らしい雰囲気を感じてもらえるようにとの思いから、各病棟それぞれ工夫を凝らしながら日々の活動の中で“お正月遊び”を実施しました。

6病棟では、プレールームに神社や鳥居を常設し、参加した方たちは厳かな雰囲気の中、願いを込めて賽銭箱にお賽銭を投げ入れたり、願いを込めてお祈りしたりしました。また、福笑いでは「おかめ」や「ひょっとこ」の福笑いをチームみんなで協力して完成させましたが、完成した絵はどれもとても味わいのある表情を見せており、患者さんをはじめ、病棟のスタッフをも笑顔にさせるものとなりました。

コロナウィルスの影響によるこのような状況は、今後

もしばらく続くことが予想されますが、そのような中においても患者さんが楽しく、笑顔になれる活動を提供できるように、創意工夫を凝らしながら日々の活動を行っていききたいと思います。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア活動の制限をお願いせざるを得ない状況が続いております。そんな状況下だからこそできることとして、オンライン等を活用し患者さんの特別な時間を作っているよう努めております。

星つむぎの村の皆さんからはプラネタリウムのYoutube 配信、須賀川バプテスト教会の皆さんやグレイスインパクトクワイヤの皆さんからゴスペルのDVDなど、直接披露できなくてもコロナ禍で密になることなく、各病棟内にて日中活動で視聴することができ、大変好評でした。

外部との関わりが少なくなっている今、イン

ターネット等を利用するなど、今後も、新たなカタチのボランティア活動に努めていきたいと思っています。

ご協力していただいたボランティアの皆さん、ありがとうございました。



●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和3年4月1日より】

区	分	月	火	水	木	金
内科	1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内科	2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内視鏡検査					安田千尋	
脳神経内科		伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小児科		福島医大	石井勉 氏家二郎	石井勉		河原田勉
専門外来 (発達小児クリニック)			石井勉 氏家二郎			河原田勉
専門外来 (小児神経外来)		石井希代子 (第1・3) 平山恒憲 (第2) 再来のみ		石井希代子 (第2・4・5)		
専門外来 (小児循環器外来)				桃井伸緒 (第2・4)		
小児専門外来		予防接種 (午後)				
整形外科		古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小児外科					清水裕史	
脳神経外科			福島医大 (第2・4)			

●完全予約制となります。予め予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。
- 外来担当医表は令和3年4月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)
診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

暖かな日差しが指す日が多くなり春の兆しを感じるこの頃です。今年度は新型コロナウイルスの流行により、生活が一変した1年でした。ワクチン接種が始まっていますが、まだソーシャルディスタンスを保つ生活は続きそうです。ウイルスとの戦いに負けないよう感染症対策をしっかりして新年度を迎えましょう。(編集委員 臨床検査技師)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>